

平成29年度

島根大学大学院医学系研究科
看護学専攻（博士前期課程）

学生募集要項

入学案内

（第3次募集）

島根大学大学院医学系研究科

目 次

	ページ
アドミッション・ポリシー	1
一般入試・社会人入試（第3次募集）	
1 募 集 人 員	1
2 募 集 する 教 育 研 究 コ ー ス	1
3 出 願 資 格	1
4 出 願 手 続	2
5 入 試 方 法	4
6 合 格 者 発 表	4
7 入 学 手 続	5
8 入 学 者 選 抜 試 験 成 績 の 提 供	5
9 長 期 履 修 制 度	6
10 入 学 料 ・ 授 業 料 の 免 除 及 び 徴 収 猶 予 制 度	6
11 奨 学 金 制 度	7
12 学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 険	7
13 個 人 情 報 の 取 扱 い	7
入学案内	
1 目 的	8
2 修 業 年 限 ・ 修 了 の 要 件 ， 学 位	8
3 社 会 人 入 試 ・ 昼 夜 開 講 制 ・ 長 期 履 修 制 度	8
4 各 コ ー ス の 特 色	8
5 コ ー ス 別 指 導 教 員 （ 看 護 学 特 別 研 究 及 び 看 護 学 課 題 研 究 担 当 教 員 ）	9
6 履 修 方 法	10
7 履 修 モ デ ル	11
8 授 業 科 目 の 内 容 及 び 担 当 教 員	12

入 学 案 内

1 目 的

本学看護学専攻博士前期課程は、豊かな人間性と幅広い視野を基盤として科学的な視点から看護学の学識を教授研究し、卓越した看護実践能力と創造的な研究能力を持つ人材の育成を目的とします。

2 修業 ・ 修了の要 ， 学位

原則として2年以上在学し、所定の単位（30単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて修士論文を提出し、その審査に合格することとします。学位は、修士（看護学）です。

3 社会人入試・ 夜開 制・ 期履修制度

社会人が職業を継続しながら就学できるよう、「社会人入試」の入試枠を設けるとともに、大学院設置基準第14条の規定を活用した「夜開 制」、並びに「期履修制度」を設けています。

各コースの特色

看護学専攻は、高度な実践者・教育者・研究者の育成のいずれにも対応できるよう、看護援助学コース、看護管理学コース、地域・在宅看護学コース、母子看護学コース、成人（急性・慢性）看護学コース、高齢者看護学コース、老人看護CNSコースの7コースを設置し、専門必修科目・専門選択科目・基盤科目の三つの柱で教育課程を構成しています。

1) 看護援助学コース

ヒューマンケアと看護の質の向上という観点から看護援助に関する理解を深め、あらゆる看護領域の実践の基盤となる対人関係及び看護援助技術に関する理論・技術・教育方法について教育・研究を行います。

2) 看護管理学コース

社会のヘルス・ニーズに対応して、最良の看護を組織的に提供し、計画・組織化・支持・調整・統制といった諸活動を展開するために必要な看護管理の理論と方法を修得し、看護管理実践における看護管理技術の検証と更なる開発をめざして教育・研究を行います。

このコースを修了して修士号を取得し、かつ、日本看護協会認定看護管理者規則第19条に定める実務経験を有する者は、認 看護管 認定審査の受験資格を得ることができます。

3) 地域・在宅看護学コース

地域の地理的、文化的、社会的環境と密接に関係する人々の健康的な生活を維持するため、個人や家族、学校、職域及び集団を対象として、保健・医療・福祉の効果的・効率的連携を可能にする看護と方策について教育・研究を行います。また、一般住民や在宅療養者の生活の質向上に向けて、専門的看護の実践における教育・研究を行います。

4) 母子看護学コース

ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係や家族関係に関連する理論を学び、様々な健康状態にある小児の特性、妊産婦や子どもの健康問題に関する最新の知見や母子保健施策を通して、母子や家族の健全な発達を支援する方策について教育・研究を行います。

5) 成人（急性・慢性）看護学コース

成人期にある患者と家族を対象とし、発達的な特徴を踏まえて健康障害や健康レベルの特徴についての理解を深め、看護の課題を明らかにするとともに、変化する医療や生活環境に対応した看護援助のあり方や方策について教育・研究を行います。

6) 高齢者看護学コース

加齢による変化や疾病・障害を持つ高齢者の健康上の問題と日常生活との関係をアセスメントし、健康的な老年期の生活を維持できる看護の理論と方法について学び、高齢者や家族へのケアをコーディネートすることのできるマネジメント能力やケア開発のための教育・研究を行います。

7) 老人看護CNSコース

老人看護分野において、総合的な判断力と組織的な問題解決力を持って活動し、老人看護実践の発展に貢献できる専門看護師（CNS）の育成を目指します。

5 コース別指導教員（看護学特別研究及び看護学課題研究担当教員）：平成29年度予定

コース	指導教員	研究テーマ
看護援助学	未定	
看護管理学	内田 宏美 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職リスクマネージャーのパワーに関する研究 ・アクション・リサーチ法を用いたヘルスケア組織の活性化に関する研究 ・看護管理者のリーダーシップに関する研究 ・看護職のキャリア発達とその支援に関する研究 ・看護技術教育方法の構築に関する研究
	小林 裕太 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・病院における感染対策に関する研究 ・病院における医療者の抗がん剤暴露に関する研究 ・感染看護教育の構築に関する研究
	津本 優子 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・看護情報や情報システムに関する研究 ・看護職の人材育成・活用に関する研究 ・看護職の継続教育に関する研究
	福間 美紀 准教授	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の場における感染管理に関する研究 ・介護保険制度や介護予防に関する研究 ・がん化学療法関連業務における曝露予防に関する研究 ・看護実践及び教育の効果検証に関する研究
地域・在宅看護学	小笹 美子 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生看護活動に関する研究 ・こどもの虐待予防に関する研究 ・保健師の成長，継続教育に関する研究 ・地域看護（在宅看護，産業看護等）に関する研究 ・災害看護における被災者支援に関する研究
母子看護学	三瓶 まり 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期における音楽のリラクゼーション効果に関する看護学的研究 ・母子関係専門性・独自性に関する研究 ・小児の健康に対する睡眠の影響 ・親の育児スタイルと育児支援
	福田 誠司 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の遺伝性疾患に関する研究 ・小児の血液悪性腫瘍に関する研究 ・小児の発達と発育に関する研究 ・医療安全，ワークライフバランスに関する研究
成人（急性・慢性）看護学	矢田 昭子 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者と子どもを含めた家族の支援に関する研究 ・退院支援に関する研究 ・グリーフケアに関する研究 ・医療の場における看護倫理に関する研究

成人 (急性・慢性) 看護学	橋本 龍樹 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系の組織形成と成熟に関する研究 ・成人期の知的障がい者の生活習慣病予防と体力維持に関する研究 ・人体発生学と先天奇形に関する研究
高齢者看護学	原 祥子 教授	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期の自我発達支援に関する研究 ・高齢者看護ケアの開発 ・高齢者看護ケアの質及びその評価に関する研究 ・在宅ケアシステムに関する研究 ・高齢者施設ケア及び訪問看護に関する研究 ・高齢者看護における倫理的課題に関する研究
老人看護CNS		

6 履修方法

老人看護CNSコース専攻者以外は、下記の修了要件を満たすよう、「履修モデル」より必要となる科目を履修します。

区分	履修科目	単位数
専門必修科目	専攻するコースの特論：2単位 専攻するコースの演習：2単位 看護学特別研究：8単位	12単位
専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	10単位以上
基盤科目		8単位以上
合 計		30単位以上

老人看護CNSコース

専門看護師教育課程（老年看護）として認定されています。下記の修了要件を満たすよう、別紙「履修モデル」より老人看護CNS受験資格に必要な科目を履修します。

区分	履修科目	単位数
専門必修科目	高齢者看護学特論：2単位 高齢者看護学演習：2単位 高齢者看護学実習：6単位 看護学課題研究：4単位	14単位
専門必修科目 専門選択科目	専攻するコース以外の特論及び 専門選択科目	14単位以上
基盤科目		8単位以上
合 計		36単位以上

7 履修モデル

授業科目名	開講年次	単位数			看護援助学コース	看護管理学コース	地域・在宅看護学コース	母子看護学コース	看護学コース 成人(急性・慢性)	高齢者看護学コース	老人看護 CNS コース	
		講義	演習	実習								
専門必修科目	看護援助学特論	1	2									
	看護援助学演習	1		2								
	看護管理学特論	1	2) : 4科目(8単位)以上	
	看護管理学演習	1		2								
	地域・在宅看護学特論	1	2									
	地域・在宅看護学演習	1		2								
	母子看護学特論	1	2									
	母子看護学演習	1		2								
	成人(急性・慢性)看護学特論	1	2									
	成人(急性・慢性)看護学演習	1		2								
	高齢者看護学特論	1	2									
	高齢者看護学演習	1		2								
	高齢者看護学実習	1・2			6							
	看護学課題研究	2		4								
	看護学特別研究	2		8								
専門選択科目	リスクマネジメント論	1・2	2									
	看護人材育成論	1・2	2									
	看護情報管理論	1・2	2									
	保健医療福祉政策論	1・2	2									
	母子フィジカルアセスメント方法論	1・2	2									
	重症者フィジカルアセスメント方法論	1・2	2									
	臨床薬理・薬剤学	1・2	2									
	高齢者看護実践論	1・2	2									
	高齢者看護援助論	1・2	2									
	認知症看護論	1・2	2									
高齢者在宅ケアシステム論	1・2	2										
基盤科目	家族看護援助論	1・2	2									
	看護理論	1・2	2									
	看護倫理	1・2	2									
	コンサルテーション論	1・2	2									
	看護研究方法演習	1・2		2								

必修 履修することが望ましい科目 認定看護管理者認定審査受験者必修 CNS 共通選択科目

(備考) 基盤科目は、8単位以上、専門必修科目は、各コースの特論2単位及び演習2単位並びに看護学特別研究8単位(CNSコースは課題研究4単位)、専攻するコース以外の専門必修科目の特論及び専門選択科目から10単位以上、合計30単位以上を修得しなければならない。なお、老人看護CNSコースの履修については、指導教員の指導を受けること。

8 授業科目の内容及び担当教員

(1) 専門必修科目

授業科目名	講義等の内容	担当教員
看護援助学特論	<p>医療・看護を取り巻く環境が時代とともにどのように変化しても、人々が看護職に期待するものは安全かつ質の保障された看護であり、その際の人間的なあたたかい対応です。このヒューマンケアは看護の古くて新しいテーマであり、人々が主体的に問題解決に取り組んでいく過程を支える看護の価値に通じています。</p> <p>本科目では、看護実践の基盤となる援助関係や看護技術など、看護援助に関する理論・技術・教育方法について修得します。また、看護職者の対人援助能力の向上を支援する教育（基礎／卒後）の方法や、看護援助に関する研究の動向について学習します。</p>	未 定
看護援助学演習	<p>看護援助の質の向上や、看護方法・教育方法（基礎／卒後）の開発をめざし、関心ある領域の研究課題を見出します。先行研究文献や看護援助について批判的考察を行い、問題意識に基づいて研究計画書を作成するまでの体験を通して、研究的態度と研究手法を身につけます。</p>	未 定
看護管理学特論	<p>看護管理における課題の解決にあたっては、保健医療そのものの知識のみならず、心理学、教育学、社会学、経営学などの多岐にわたる学問領域の知見と成果を活用することが求められています。看護に関連する保健医療システムの現状と問題点の特性を理解した上で、関連する諸理論の枠組みを活用して看護管理上の問題を批判的に分析し、解決していくための基礎的能力の修得を授業の柱とします。</p>	内 田 宏 美 草 刈 淳 子
看護管理学演習	<p>看護管理における活動を、理論的且つ実践的に進めていくために必要な知識・技術の修得を目指します。そのための基本となる、主体的研究態度と研究手法を身につけます。</p>	津 本 優 子 内 田 宏 美 小 林 裕 太 福 間 美 紀 宮 本 まゆみ
地域・在宅看護学特論	<p>地域で暮らす人々の生活を支えるために地域看護の歴史の変遷や地域看護の理論を学び、地域で生活する個人、家族、集団、組織の健康課題を理解します。特に、生活弱者、健康弱者の健康課題とその支援方法について事例を通して学びます。これらを踏まえ、地域看護の実践に必要な基礎的知識、研究方法について学びます。</p>	小 笹 美 子 岡 本 玲 子
地域・在宅看護学演習	<p>地域看護学領域における関心のあるテーマについて、研究計画書作成までのプロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得を目指します。</p>	小 笹 美 子
母子看護学特論	<p>ライフサイクルと生涯発達の視点に立って、母子関係および家族関係に関連する理論を学び、特に健康に問題を持つ小児と家族の特性、小児の健康問題に関する最新の知見や母子保健・福祉施策を通して母子および家族の健全な発達を支援する方策について学習します。</p>	三 瓶 ま り 福 田 誠 司 岸 野 和 子 野 澤 美 江 子
母子看護学演習	<p>母子看護学領域における関心あるテーマについて、研究計画書の作成までの研究プロセスを体験し、基本的な研究能力の獲得をめざします。</p> <p>また、妊娠・出産・子育てをめぐる問題について、母子および家族の健全な発達を支援する具体的な援助方法について学びます。また、健康上の課題をもつ小児と家族への援助方法について学びます。</p>	三 瓶 ま り 福 田 誠 司 秋 鹿 都 子

成人(急性・慢性)看護学特論	疾患をもつ成人期の患者とその家族の理解や看護援助について、必要な理論及び新しい知見を学習します。そして、学習した理論や知見を臨床看護に応用できるように、個々の体験に基づいて分析し、看護援助のあり方について検討します。これらをふまえて、成人期の患者とその家族に対する看護および研究の方法について探求します。	矢田昭子 宮下美香
成人(急性・慢性)看護学演習	成人看護学領域における興味・関心のある研究課題について研究計画書を作成し、看護研究に必要な基礎的能力を修得します。	矢田昭子 橋本龍樹 森山美香
高齢者看護学特論	高齢者の健康問題に適切に対処していくためには、高齢者看護学に関する基本的な概念や諸理論、健康生活に関する評価方法とその技術を活用し、加齢のプロセスで生じる心身の健康問題と生活への影響について適切な判断と評価を行うことが求められています。高齢者の健康生活を支える看護実践に向けて、高齢者の健康生活上のニーズの査定に必要な理論と方法の修得を目指します。	原祥子
高齢者看護学演習	各自の関心領域における看護ケアの実施・参加観察・実験・調査等を踏まえた実践的検討および文献の批判的考察による理論的検討を通して、疾病や障害をもつ高齢者の生活に生起する現象の探究、保健・医療・福祉施設や在宅で生活する高齢者とその家族への看護モデルの開発を目指した研究方法を追究します。	原祥子
高齢者看護学実習	高齢者看護について創意工夫をしながら優れた看護活動を行っている病院、介護保険施設、訪問看護ステーション等において、豊富な高齢者看護実践経験をもつ看護職者の指導のもとでの看護実践を通して、直接的な看護実践の能力を向上させるとともに、相談、ケア調整、倫理調整、スタッフ教育の能力を開発します。実習を通して、高齢者看護ケアを変革・発展させていくことのできる老人看護専門看護師としての視点を養います。	原祥子
看護学課題研究	高齢者看護学実習に関連のある特定の実践的課題を追究します。高齢者看護の現場における課題を明確にしたうえで、研究計画を立案し、その計画に従って研究を実施します。課題研究の成果は、修士論文として作成します。	原祥子
看護学特別研究	特論・演習及び専門科目で学んだことを基盤に、各専門領域の看護学に関する研究課題を見だし、その課題を解決するために最適な方法を検討し、研究計画を立案し、データ収集及び結果をまとめ、修士論文を作成します。	内田宏美 津本優子 小林裕太 小瓶ま 三田誠 福田昭 矢田龍 橋本樹 小笹美 原美 福間祥子 紀

(2) 専門選択科目

授業科目名	講義等の内容	担当教員
リスクマネジメント論	医療安全管理体制の整備が診療報酬システム上でも制度化され、医療リスクマネジメントを推進するための基盤は一応整ったといえます。しかし、高度化・複雑化する医療におけるリスクは増大し続けており、リスクマネジメントの効果的な展開のための理論的方法を構築する必要に迫られています。本科目では、臨床現場の医療安全推進者に照準を当て、組織横断的なネットワークを基盤としたリスクマネジメントの理論的な方法に重点を置いて学習します。	内田宏美子 嶋森好子
看護人材育成論	看護専門職としての生涯学習の観点から、看護基礎教育の基盤の上に看護実践能力を効果的に発展させるための看護継続教育の考え方と方法を、理論的根拠に基づいて学習します。さらに、実際の教育計画を批判的に分析し、改善策を検討することをおして、人材育成と活用に必要な洞察力や判断力、問題解決能力を高めることを目指します。	津本優子 任和子
看護情報管理論	看護実践における情報収集・処理、問題の選択・抽出、優先順位の設定、実施、評価という基本過程に十分な検討を加え、地域社会、在宅日常生活における、地理的、時間的、空間的事象をつなぐ情報特性を用いた連携、継続、システム構築においての理論、手技を看護基礎科学分野の一部として位置づけ、教授します。	津本優子 石垣恭子
保健医療福祉政策論	看護管理者、CNSや大学院修了者などの高度看護実践者には、社会のヘルスニーズに対して看護の仕事の仕組みを自ら変革し、創造していく能力、保健医療福祉等の関連サービスに携わる人々と連携・協働して活動する実践能力が求められています。さらには、問題の本質的解決のために必要な施策を提示し、制度化に繋いでいくマネジメント能力が求められています。 少子高齢化社会のヘルスニーズに対応する保健医療福祉システムとその基盤となる制度・政策の動向と課題を踏まえて、現状を分析し、改善・改革すべき問題に焦点を当て、データに基く改善・改革策を行政機関等に提示しうる基礎的能力を培います。	小笹美子 岸恵美子 牧野由美子 馬庭恭子
母子フィジカルアセスメント方法論	母子を対象として看護を実践するためには、妊娠による身体的変化および発達段階を考慮して身体診察を行い、健康問題を診断した上で、自律して看護を展開する能力が求められています。本科目では、母性および小児を対象に主として身体的健康問題を理解するために必要なフィジカルアセスメントの専門的技術の方法を学びます。	三瓶まり 福田誠司
重症者フィジカルアセスメント方法論	重症・急性期における生体反応の病態生理を理解し、高齢者に多い疾患を含めた各種疾患における臨床的なアセスメントの方法論を学び、科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的事項から最新の知識を学びます。	橋本龍樹 森山美香
臨床薬理・薬剤学	薬物と生体の相互作用の結果起こる現象とその機構を理解し、薬物による疾病の治療や疾病の再発予防に関する理論を学びます。薬理学については看護師の基礎教育で一通りの知識を持っているという前提で、研究動向を含め、がん治療や慢性疾患治療、高齢者薬物療法などのトピックスを紹介します。さらに薬物による副作用および薬剤の管理について学びます。	小林裕太 直良浩司

高齢者看護実践論	複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、専門的知識と理論に基づいて判断し、問題解決へ向けた看護援助ができる能力を開発します。また、高齢者のセルフケアを支援する看護について再考するとともに、高齢者と家族へのヘルスケア提供モデルについて探究します。	原 泉	祥 子 キヨ子
高齢者看護援助論	老人看護専門看護師に求められる、病院・施設における高齢者とその家族に対する卓越した看護の実践、看護職に対する教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、ケア調整、倫理的調整の各役割機能を果たすことのできる能力を開発します。	原 吉 塩 岡 川	祥 子 佐知子 ゆ り
認知症看護論	認知症高齢者とその家族の生活環境や生活活動の調整、家族関係の調整のための具体的援助、それらに関する看護職への教育、看護職を含むケア提供者に対する相談、保健医療福祉ニーズのケア調整、倫理的課題への調整の機能を果たすことのできる能力を開発します。	原 浦 吉 上 岡	祥 子 克 哉 佐知子
高齢者在宅ケアシステム論	高齢者・在宅療養者の健康生活をサポートしているケアシステムの現状を理解し、それらを活用するための理論と実際を学びます。また、専門的知識と理論に基づいて高齢者のサポートシステムを組織化する方法を修得し、サポートシステムを発展させることのできる能力を開発します。	原 谷 高三	祥 子 静 子 成 子 恭 子

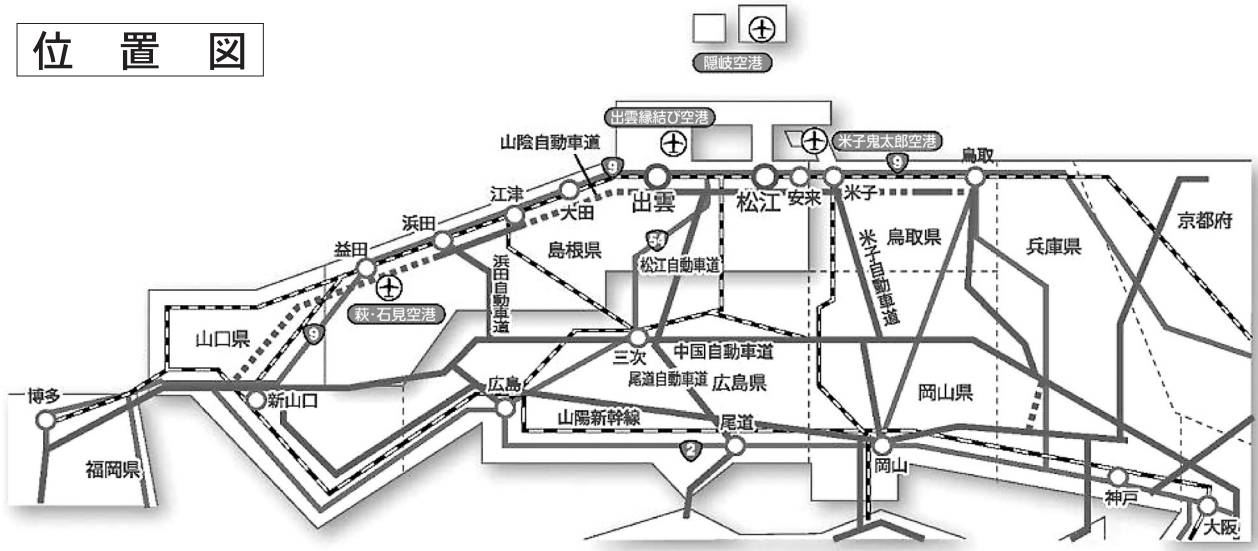
(3) 基盤科目

授業科目名	講義等の内容	担当教員
家族看護援助論	今日、「家族看護」はこれまでにない様々な領域で専門的な援助の実践が求められるようになってきています。本科目では家族看護の実践力を高め、家族の健康問題におけるコンサルテーションの基礎的能力を修得できるよう、主たる家族看護理論から実践までの理解をねらいとします。また、高齢者から小児までの幅広い対象に対し、看護介入における看護者としての援助方法について事例を通して学び、関連する他機関や専門職種との連携につなげられる看護実践能力の修得を目指します。	矢 田 昭 子 鈴 木 志津枝
看護理論	実践の科学である看護学の基礎をつくるものは理論です。看護現象を説明し理論を生成すること、理論を実践に活用してその妥当性を検証すること、この繰り返しによって看護は看護学として発展し、社会の健康ニーズに応え得る質の高い看護を展開することができます。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度看護実践者として、理論に基づいた専門性の高い看護を実践することによって、看護の成果を社会の人々や保健医療チームのメンバーに示し、看護の発展に寄与することが期待されています。 本科目では、看護理論に関する基本的知識、および看護実践への理論の活用方法とその効果の評価方法について学習し、理論と実践の融合した質の高い看護サービスを提供するために必要な論理的思考力と実践力を高めます。	福 間 美 紀 津 本 優 子 内 田 宏 美 長 田 京 子

看護倫理	<p>看護倫理の中心課題は、現代の保健医療システムの中でケアはいかにあるべきかを探ることであり、専門職の責務として倫理的問題やジレンマを解決していくための方法を探究することです。CNSをはじめ大学院修了者には、看護実践の場で現に発生している、あるいは潜在的な倫理的問題に対して、メンバーが主体的に対峙し、問題の本質を分析し、より良い解決に向けて対策を講じることができるよう、調整や支援を行うことが期待されています。本科目では、基盤となる倫理・哲学の思想、生命倫理、医療倫理に関する基本的知識を学習して多面的なものの見方考え方を身につけること、それを基盤にして看護実践・教育・研究・管理のあらゆる領域における倫理的問題とは何かを洞察できるようになること、さらには、現実的な問題の分析と対策の検討をとおして、倫理的判断力や問題解決能力を高めることを目指します。</p>	内田宏美 清水哲郎
コンサルテーション論	<p>人々の健康生活を支える看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なケアのネットワークを構築していくことが重要となります。コンサルテーションは、ケアのネットワーク構築を推進するうえで重要な機能を果たします。CNSをはじめとする大学院修了者には、専門分野の高度な看護実践に関する相談・支援活動を展開することはもとより、ヘルスケア組織全体の看護の質向上のために、各機能間の協働と連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されています。</p> <p>本科目ではコンサルテーションの理論と方法について学習し、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行うための能力を養います。</p>	内田宏美 宇佐美しおり 長田京子
看護研究方法演習	<p>看護実践の経験知を可視化し、看護の学問的発展を支えるのが看護研究です。本科目では、現実的な問題意識に端を発して、その疑問や問題を研究的に解明し検証していくための科学的方法を学びます。CNSをはじめとする大学院修了者には、高度な看護実践者として看護の質向上に寄与することが期待されています。したがって、本科目での学習を看護学特別研究へと繋ぐことにより、看護研究を自律して実施する能力、研究の成果を看護実践に活用し、評価する能力の獲得を目指します。</p>	津本優子 小橋本裕 内田本龍 小田田宏 福笹美 秋鹿美都

担当教員の変更によって講義等の内容を変更し、または不開講とする場合があります。

位置図



交通案内

出雲キャンパス	空路 東京 (羽田) 出雲 約 1 時間 20 分 名古屋 (小牧) 出雲 約 1 時間 大阪 (伊丹) 出雲 約 1 時間 福岡 出雲 約 1 時間 5 分 出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行 (約25分) J R 出雲市駅下車	J R 出雲市駅より 一畑バス 出雲市駅・上塩治車庫行 島根大学病院下車 約10分 市内循環左回り (150円バス)・上塩治車庫行 島根大学病院下車 約7分 出雲須佐行 島根大学病院下車 (2番のりば) 約10分 須佐行は、朝夕の便で経由しない便もありますのでご確認ください。
	J R 東京 岡山 出雲市 約 6 時間 30 分 大阪 岡山 出雲市 約 3 時間 50 分 岡山 出雲市 約 3 時間 福岡 岡山 出雲市 約 4 時間 50 分	徒歩 J R 出雲市駅南口から徒歩25分
	高速バス 東京 (渋谷) 出雲 約 11 時間 20 分 名古屋 出雲 約 10 時間 大阪 (梅田) 出雲 約 5 時間 35 分 京都 出雲 約 5 時間 50 分 神戸 (三宮) 出雲 約 5 時間 20 分 岡山 出雲 約 4 時間 広島 出雲 約 3 時間 福岡 出雲 約 9 時間	



出雲キャンパスは、松江市内からは1時間以上要しますので、宿泊される場合は出雲市内の宿泊施設を利用してください。

建物配置図

